

(様式2)

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書 【最終評価】

関市立関商工高等学校 定時制課程

学校番号 63-10

I 自己評価

1 学校教育目標	「至誠明朗」の校訓を体し、知・徳・体の調和のとれた創造的・人間性豊かな実践力のある地域社会人の育成を図る。	
2 評価する領域・分野	◇学校経営	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	多くの生徒が小・中学校で経験した学習への不安、学校生活への不安を抱えた状態で入学しているが、本校での生活には、生徒・保護者ともに概ね良い印象を持っている。しかし、将来に対する具体的な目標が持てず、漫然と学校生活を送っている生徒が多く、学業や学校生活に積極的に取り組む姿勢が弱いのが現状である。生徒が置かれた生活環境も多様化しており、具体的な支援・指導における、保護者・生徒と学校の連携のあり方を今後改善していく必要がある。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇授業を主体的な学びの場とするための効果的なICTの活用法を模索し、基礎学力の定着と、自ら学び自ら考える力を育成する。 ◇基本的生活習慣の育成と、豊かな人間性と社会性の伸長に努める。 ◇高校生活を自分探し、自分創りの場と捉えさせ、主体的に進路を選択できる能力や態度を育成する。 ◇生徒の多様化に対応し、生徒一人ひとりをよく理解し、全職員の共通理解のもとに、個に寄り添った支援・指導を推進する。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・職員会議、各種会議(部長会議、分掌会議、工業科会議等) ・職員連絡会(週3日実施) ・各種委員会(生徒指導、進路指導等、研究推進)	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1)ICTを活用した主体的な学びの提供 (2)全職員による授業、集会時における規律指導 (3)全職員による進路指導と外部機関との連携 (4)校内巡視と登下校時の声かけ支援・指導 (5)研究推進委員会の開催と研修・情報共有	(1)学校評価・学校生活アンケートの集計結果 (2)欠席、遅刻、欠課時数の集計結果 (3)行事後のアンケート結果や迷惑調査の集計結果 (4)公開日等の保護者、外部講師のアンケート結果	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・効果的にICTを活用した授業実践を行い、職員間で情報共有しながら授業改善を行う。 ・登下校時、授業時、集会時など様々な場面で見逃さない指導、声かけを積極的に推進する。 ・進路先の開拓とともに、職業観の育成を目指したキャリア教育関連事業を推進する。 ・職員の情報の共有、地域・保護者との情報交流を大切にする。	① 生徒が主体的に授業に参加しているか。 ② 時間厳守の習慣や社会的なマナーが向上したか。 ③ 生徒一人ひとりにあった進路実現ができたか。 ④ 職員の共通理解を図り、組織が有効に機能したか。	A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>
11 成果・課題	総合評価 A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>	
12 来年度に向けての改善方策案 ・多様な生徒に対する多様な学びに対応しなければならない現状から、次の3点を軸に具体的な学校経営の実践に取り組んでいく。①教科指導「学び直しの環境づくり」②生徒指導「心の居場所づくり(セーフティネット)」③進路指導「個に応じた職業観・勤労観づくり」。 ・感染症対策を十分に配慮しながら、生徒主体の新しい学校行事のあり方を工夫する。(with コロナ) ・ICTの活用を推進し、教員のスキルアップとともに興味・関心ある授業改善に取り組んでいく。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年1月30日

【意見・要望・評価等】

定時制が行っている教育をもっと発信すると良いと思う。地域の定時制が果たす役割はとても重要であり、中学校との連携を密にして生徒募集をしていくことが重要である。

(様式2)

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書【最終報告】

関市立関商工高等学校 定時制課程

学校番号 63-10

I 自己評価

1 学校教育目標	「至誠明朗」の校訓を体し、知・徳・体の調和のとれた創造的・人間性豊かな実践力のある地域社会人の育成を図る。		
2 評価する領域・分野	◇教務部		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導において、教員の取り組みに対し、保護者・生徒ともに肯定的に捉えている。 ・習熟度別授業、少人数指導、補充指導、補習など個々に応じた指導の評価は高い。 		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇基礎的・基本的な内容の充実と発展を図り、生徒の主体的な学習態度の育成に努め、自ら学び自ら考える力を育成する。 ◇生徒の実態に即した学習指導を工夫し、個に応じたきめ細かな指導に努め、学ぶ楽しさを実感できる授業展開に努める。 ◇指導内容の重点化と教材の精選を進めて、生徒の興味・関心を喚起し、成就感・達成感が得られる魅力ある授業づくりに努める。 ◇基礎的な国語力・計算力の向上を目的として、個々の目標及び習熟の程度に応じた指導による基礎・基本の向上と、「学び直し」を意識した義務教育段階の学習内容の確実な定着を図るように努める。 		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議 ・週3回の職員連絡会 ・教務部会 		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1)確かな基礎学力の向上 (2)習熟度別授業、少人数授業による指導、長期休暇中の補充指導 (3)授業規律の確立	(1)生徒の理解度に即した教材と指導方法の研究。 (2)全職員の共通理解と生徒への指導の徹底。 (3)きめ細かな指導とコミュニケーションを図り、基礎学力の定着に努める。		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・普通科目による工夫したプリント学習による基礎・基本的な学力と学習意欲の向上 ・習熟度別授業、少人数指導、T Tの実施による生徒の実態に即した学習指導 ・「授業中に守るべきこと」に基づく授業規律の確立 ・欠課時数過多者への段階的な指導 	①授業への主体的な参加ができたか。理解しやすいか。興味・関心を引き出せたか。 ②積極的に取り組み、理解したうえで疑問を持たたか。 ③授業等の指導が成果として現れているか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>	
11 成果課題	○実習では安全教育の徹底を図り、ものづくりの心構えを学習できた。 ○資格取得に向けて取り組む姿勢が見られるようになった。 ▲自己実現へ向けての学習意欲を引き出す工夫がさらに進める必要がある。 ▲社会人として求められるコミュニケーション能力を身に付けるため、より一層の工夫が必要である。		総合評価 A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>
12 来年度に向けての改善方策案			
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学力に応じた基礎学力定着のための学習指導方法と教材研究に引き続き取り組む。 ・専門教科への興味・関心を高め、目標を決めて主体的に学習に取り組む体制をつくる。 ・授業への心構えを向上させ、生徒がICT機器を活用できる授業の推進に取り組む。 ・コミュニケーション能力を身に付けるための指導をさらに工夫する。 			

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年1月30日

【意見・要望・評価等】

教科指導においては「学び直しの環境づくり」を基本方針として、基礎基本の学力の定着を目指していくことが重要である。個に応じた分割授業やT・Tの取り組みは大変有意義である。

(様式2)

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書【最終報告】

関市立関商工高等学校 定時制課程

学校番号 63-10

I 自己評価

1 学校教育目標	「至誠明朗」の校訓を体し、知・徳・体の調和のとれた創造的・人間性豊かな実践力のある地域社会人の育成を図る。	
2 評価する領域・分野	◇生徒指導部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・「個々の生徒に合った生徒指導」、「マナーや規範意識を身に付けさせている」、「いじめや差別への厳しい対応」、「体罰の防止」の全ての項目で、大半の生徒および保護者から肯定的な意見を得ている。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇基本的な生活習慣の育成を図り、授業規律の確立と健康的な生活規律の育成に努める。 ◇生徒一人一人を正しく理解し、個々の生徒に応じた信頼と愛情のある指導と助言を行う。 ◇問題行動の早期発見・早期指導に努め、特にいじめ・不登校・暴力行為・性の問題・薬物乱用などには全職員が危機意識を持ち、全校体制で指導に当たる。 ◇命の尊さや、人間としての基本的な倫理観、規範意識を体得できるよう全教育活動を通して指導に努め、豊かな人間性の伸長を図る。 ◇家庭をはじめ、関係機関と連携を図り、学校ぐるみ、地域ぐるみの生徒指導を推進する。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・いじめ防止対策委員会、生徒指導委員会 ・職員連絡会での生徒情報交換	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 基本的な生活習慣の確立	(1) 学業と仕事の両立に努力し、時と場に応じた行動をとることができる。	
(2) 交通・安全指導	(2) 命の大切さを忘れず、「4ない運動」を遵守し、交通ルール・マナーを守ることができる。	
(3) 教育相談の充実	(3) 不登校やいじめに適切な対応をとり、生徒が安心して学校生活を送ることができる。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・基本的な生活習慣の確立 ○授業規律の確立 ○式・集会指導 ○生活全般の指導 ・交通・安全指導 ○「4ない運動」の徹底 ○交通講話、薬物乱用防止講話等の実施 ・教育相談の充実 ○全職員による生徒理解 ○テストバッテリーM2+、hyper-QU、シグマ検査、迷惑調査の実施	①基本的な生活習慣を身に付けさせるため、全職員が共通認識のもとで生徒指導にあたることができたか。 ②職員間での共通理解を図って、問題行動や問題の未然防止に組織的な対応をすることができたか。 ③生徒の変化を見逃さず、生徒のためを思った適切な生徒指導(教育相談)ができたか。	A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>
11 成果課題	○自転車点検や下校時の指導を通して、生徒の安全意識を高める啓発ができた。 ○各種検査や研修を活用し、個々の生徒の理解を深め、生徒の相談に当たることができた。 ・▲新型コロナウイルス感染症を含め、生徒の欠席が多くなった。健康管理を意識させながら、学習意欲を高める指導に苦慮した。	総合評価 A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>
12 来年度に向けての改善方策案	・生徒の資質が変化する中で、生徒への関わり方を常に見直し、個々に対して適切な指導助言を行うように心がける。	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年1月30日

【意見・要望・評価等】

生徒指導の基本方針である「心の居場所づくり（セーフティネット）」は定時制教育の最も重要な部分である。傾聴→共感→賞賛→提案のスタイルを今後も継続して取り組んでほしい。

(様式2)

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書【最終評価】

関市立関商工高等学校 定時制課程

学校番号 63-10

I 自己評価

1 学校教育目標	「至誠明朗」の校訓を体し、知・徳・体の調和のとれた創造的・人間性豊かな実践力のある地域社会人の育成を図る。	
2 評価する領域・分野	◇進路渉外部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>・「学校は、生徒に適した進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている。」の問いに保護者95%、生徒92%は概ねあてはまる。わからないがそれぞれ1名あった。</p> <p>「学校は、生徒の進路希望に沿った適切な進路指導をしている。」の問いに保護者100%、生徒91%は概ねあてはまる。生徒の回答に全くあてはまらないが1名、あまりあてはまらないが1名、わからないが1名あった。</p> <p>・生徒に寄り添った指導を行い、多様化した生徒の能力や適性を把握することで、適切な進路情報を適宜伝えることが大切である。</p> <p>・保護者懇談の機会などに生徒の置かれた社会的な実情を伝え、卒業後の進路実現につなげることが必要である。</p>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>◇早い段階から将来の自己の在り方生き方を考えさせ職業意識を高める。</p> <p>◇教科指導やホームルーム活動等を通してキャリア教育を推進する。</p> <p>◇勤労体験を通して、勤労観・職業観を育成する。</p>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・担任を中心に全職員で取り組む。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1)職業意識のための外部講師の活用 (2)キャリア教育の推進のための進路行事 (3)勤労観・職業観の育成のための勤労学生の推進	(1)講話や進路行事後のアンケート (2)就労先の紹介と就労(アルバイト)状況 (3)就職希望者の内定率 (4)卒業までに進路決定	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> 外部講師の活用 進路オリエンテーション、進路ガイダンス 進路希望調査と進路相談の充実(全学年) 進路実現のための面接や履歴書についての指導 	<p>① 勤労観・職業観が身に付いたか。</p> <p>② 進路情報が伝わり、進路選択に役立ったか。</p> <p>③ 卒業後の進路が決定できたか。</p>	<p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p> <p>A B <input checked="" type="checkbox"/> C D</p>
11 成果・課題	<p>○今年度は就職希望者に全職員で面接指導を実施することで、生徒は自信を持って就職試験を受けることができた。</p> <p>○アルバイトをすることが大きな成長につながっているため、懇談の機会や日頃の生徒との会話の中で働くことの大切さを伝えた。</p> <p>△年内に進路決定の実現に向け、3者懇談で本人や保護者の希望を確認し進めた</p> <p>▲学校への求人がないような職種を希望する生徒に、関ハローワークと連携し継続して就職指導をしている。</p>	
12 来年度に向けての改善方策案	<p>「企業が求める生徒像」に近づくためのキャリア教育の推進や、基礎学力を定着させることでスキルを高め、コミュニケーション能力を向上させる。</p>	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成5年1月30日

【意見・要望・評価等】

進路指導の基本方針である「個に応じた職業観、勤労観づくり」はとても重要であり、多様な生徒に対して多様な進路指導が重要である。また、勤労しながら学校に通う生徒が多いので、入学と同時に進路指導を多角的に進めていくことが重要である。

(様式2)

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書【最終報告】

関市立関商工高等学校 定時制課程

学校番号 63-10

I 自己評価

1 学校教育目標	「至誠明朗」の校訓を体し、知・徳・体の調和のとれた創造的・人間性豊かな実践力のある地域社会人の育成を図る。	
2 評価する領域・分野	◇保健厚生部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・健康管理・安全指導の項目については、8割を超える保護者、生徒から「よく当てはまる」、「やや当てはまる」の評価をいただいた。非常変災時の対応についての周知についても9割以上の保護者、生徒から「よく当てはまる」、「やや当てはまる」の評価をいただいた。引き続き健康・安全について、また非常変災時の対応について、生徒には日常の学校生活で、保護者には紙面、すぐるなどで意識の啓発を行う。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇運動に親しみ、進んで健康に関する情報(食事・運動・休養及び睡眠)を取得し、健康で安全な生活を送る態度を育てる。 ◇「保健だより」を通じて、食事・運動・休養・睡眠・定期検診・医療機関での受診および治療等の重要性を啓発し、健康被害や事件および事故災害の未然防止に努める。 ◇自ら環境整備に取り組み、快適な学習環境を整える態度を育む。 ◇防災に関する意識を高め、緊急時に適切な対応を図れるよう支援する。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・他の分掌との連携、情報の共有 ・教育相談及び懇談(三者懇談年2回、二者懇談年1回)への協力 ・職員連絡会(週3回)による生徒情報交換会 ・生徒保健委員会	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 健康教育の推進 (2) 各種検診の実施と事後指導 (3) 学校環境の改善と美化 (4) 安全教育・防災教育	(1) 新型コロナウイルス感染症対策の指導と生徒実態調査 (2) 各種健康診断(生徒・職員)、二次検査・治療の勧告 (3) 安全点検、環境衛生各種検査、教室日常点検、年2回の 大掃除の実施 (4) 事後アンケート等による結果分析	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・毎日の検温・手洗い・消毒等による感染症対策 ・健康診断の実施と治療のための受診サポート ・使用教室及び使用設備掃除と日常点検の徹底 ・「ほけんだより」の毎月発行、「命を守る訓練」、「救急法講習会」の実施	④ 生徒及び職員の生命・安全・健康を守ることができたか。 ⑤ 検診後の健康状態の把握と健康改善のサポートはできたか。 ⑥ 学習環境の整備ができたか。 ⑦ わかりやすい「ほけんだより」の発行と効果的な「命を守る訓練」、「救急法講習会」が実施できたか。	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
11 成果・課題	○感染症に対する予防の意識啓発を常時実施することで、自主的な予防(手指消毒、マスク、換気)を当たり前出来る生徒が増えてきている。健康カードへの記入や提出についても定着しており、罹患の防止につながっていると考える。 ○各種健康診断を学校三師と連携を取りながら実施し、健康について自主的に考える機会となった。結果を受け、養護教諭などが根気よく再検査などを啓発することで、自主的に検査を行う生徒も現れた。 ▲環境整備を意識する生徒は多いが、点検の形骸化や、実施が受動的になっている生徒が多い。日常から一層啓発したい。 ○「ほけんだより」による健康意識の向上、年度内三回の「命を守る(つなぐ)訓練」による非常変災時の対応の意識啓発を積極的に実施することができた。	
12 来年度に向けての改善方策案 感染症対策、特に新型コロナウイルス感染症については、時勢の状況を鑑み、「Withコロナ」の視点を取り入れながら引き続き対策を講じていく。 環境調査(照度、CO2濃度など)を実施する中で機会に触れ環境整備を自主的、積極的に行う生徒の行動を涵養させる。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年1月30日

【意見・要望・評価等】

この3年間で感染症対策を模索しながら、新しい生活スタイルを獲得することができたことは大変有効であった。今後も個人の健康に関する意識と行動選択において、流動的に指導していくことが重要である。

(様式2)

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書【最終報告】

関市立関商工高等学校 定時制課程 学校番号 63-10

I 自己評価

1 学校教育目標	「至誠明朗」の校訓を体し、知・徳・体の調和のとれた創造的・人間性豊かな実践力のある地域社会人の育成を図る。	
2 評価する領域・分野	◇ 機械科	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・もの作りに興味があって入学してくる生徒は、ほとんどいない。保護者も機械の技術や技能を身に付けさせたいという気持ちよりも、4年間で高校を卒業させたいという思いが強い。専門性の高い工業教育よりも安全教育・基礎基本を重んじた生徒の育成を図る指導を実践し、保護者の期待に応えたい。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇教科指導の充実 ◇基本的生活習慣の定着を図る生徒指導 ◇一人一人の生徒をよく観察し、全職員で共通理解を図り協働して生徒の育成にあたる。 ◇家庭や雇用主との連携を強め、生徒への応援態勢を確立する。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・職員会議、機械科会議、工業科研究会、週3回の職員連絡会	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 工業人としての望ましい態度や習慣の育成 (2) 事故防止と安全・衛生教育、安全管理態勢の確立 (3) 職業指導の推進	(1) 授業規律の励行と欠席欠課時数の減少 (2) 挨拶ができ学習環境の保持ができる (3) 家庭や職場における生徒の様子が把握できる。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・あらゆる機会を捉えて生徒一人一人を正しく深く理解し、信頼と愛情のある指導に努め、個々の生徒に応じた指導と助言を行う。 ・学習環境の整備と清掃と安全に行動できるための安全管理・安全教育（整理、整頓、清潔、清掃等）の徹底 ・勤労観・職業観の育成（勤労学生の推進）と各種資格検定への積極的な取り組みと指導体制の確立	①職員が組織的に取り組み、互いの理解や協力が得られたか。 ②挨拶など生徒の基本的生活習慣が向上したか。 ③授業規律が保たれ、生徒の積極的な授業参加が見られたか。	A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>
11 成果 ・本年度も実習等授業中での事故もなく、安全に授業が実施できた。感染防止のため、実習室や共同で使用する保護めがね等実習用具の消毒にも心がけた。昨年度ICT機器も整備され、ICTを駆使した分かりやすい授業が展開できたと思う。 ・ものづくりに関わる学校行事で、3年ぶりに「創作活動」が実施できることになり、真ちゅう板や平鋼板を手仕上によりキーホルダー作りに挑戦するなど、直接、機械科の学習に関わる活動するクラスもあって良かった。 3年ぶりに進路指導部主催で、4年生で地元の工場見学が実施できた。	総合評価 A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>	
12 来年度に向けての改善方策案 来年度、従来の「東京モーターショー」が「JAPANオールインダストリーショー」とこれまでの「自動車ショー」から「全産業の展示会」に変わること、名古屋モーターショーの今後の動向を注視していきたい。可能であれば、コロナ前のように全校で大規模展示会の見学を再び実施していきたい。 今後、より一層充実したICT授業を展開していくために普通教科のように、工業関係の各科目のデジタル教科書、デジタル指導書等が教科書出版会社から出版されることを望みます。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年1月30日

【意見・要望・評価等】

「ものづくり」を通して地域に貢献できる人材の育成は関商工の大きな役割である。資格・検定取得への興味・関心を高め、積極的に取り組ませていくことが重要である。